



平成会
和田 喜治
議員

人口減少と空き家対策について

問 定住促進が叫ばれている中、本市では一向にそれに向けた構想が示されていない。箱物建設、東京オリンピック関連の事業にはお金を注ぎ込んでいるが、人口増加には全然役に立っていない。合併前の一つの町の人口がなくなる中で、何でこういうことを平気で進めるのか、これは市長の判断だと思われるが、職員、それを取り巻く方々が、何の意見も言えないという状態は異常である。第一にやらなければならぬことは、人口増加に向けた構想を示し、それに向けた努力をすることである。私案だが、若い方たち専用の市営住宅を建て、定住を促

答 市長 議員の提案の政策は、人口増加対策の取り組みだと考えます。市としては若者に成田空港への就職の流れを強化していきたいと考えています。

問 結婚相談事業は市の事業から離れ、現在はボランティア団体の10名で行われている。予算は1年間37万円というところで、細々と事業を進めている。地域まわづくり支援員一人の1ヶ月分の給料で事業を進めている現状を、市長は恥ずかしく思わないのか。

答 市長 年々、結婚相談会の事業規模が大きくなっている中、補助金に頼らないで、自立した団体として活動していることに感謝申し上げます。

問 6月議会で、臨時職員が平成18年の合併時の62名から平成28年には334名になったことに対して、増員は市長が携わっていないということだったが、増員はどういう形での採用となっているのか。

答 総務部長 事務決裁規程により、各部長が決裁権者となっており、総務部長等が指定の合議先となっています。

問 この度、27年度評価委員会で、さんむ医療センター業務実績報告があった。外来患者数は前年度に比べて4千864人減少、そして入院患者数は2千882人減少しているとのことである。人口減少が急激に進む中、本市だけで支えきれぬのか。

答 市長 さんむ医療センターが存続していくためには、赤字を出さないでやっていくかという経営問題があります。赤字が出たとしても、設置者である行政が支えていける間は何とかありますが、多額の繰り入れはできなくなりま



さんむ医療センターについて

問 先日行われたリオデジャネイロオリンピックのスリランカの陸上選手は、3名で、マラソンとやり投げの選手と聞いている。陸上競技場を必要としない選手構成にもかかわらず、4億5千万円かけての改修は問題だと思いませんか。

答 市長 スリランカ関係者からの要望もあり、内閣府などに相談し、有利な条件で陸上関係者の長年の夢であった全天候型のタータントラックに改修できるチャンスと捉え、決めさせていただきました。

問 成東中学校の建て替えは、費用がかかるから行わないという。今一番の問題は一番古い建物、成東中学校をどうするかという

答 市長 これは数々の問題として捉えています。地元のご意見はしっかりと聞きたいと思っています。

オリンピック・パラリンピックの取り組みについて

にあります。独立行政法人となり、民営的な運営になったことが、存続できている大きな要因になったと考えています。

ことである。蓮沼地区では中学校廃校問題で、1千100名を超える反対者署名の簿が寄せられた。成東中学校の件で、何名くらいの署名者があつたら、成東中学校の廃校が撤回されるのか。

答 市長 これら数々の問題として捉えています。地元のご意見はしっかりと聞きたいと思っています。

